

斑尾ジャズ09 報告書

斑尾が再び燃えた。8月22日（土）・23日（日）の2日間、集結した21バンド・総勢200名のジャズミュージシャンが腕前を披露した。その調べは、大地を揺るがし、浸み込み、ふるさとの山に響き、ふるさとの森に届いた。

斑尾はジャズ一色に染まり、赤く輝いた。ジャズは斑尾にとって、最も美味しい料理のようなもの、ステージも、観客席やペンション村も至福の2日間となった。盛り上がりは主会場のみならず、「斑尾ジャズ交流パーティー」も12グループの演奏が続き、会場は沸き、制限時間を1時間オーバーしつつ、「斑尾ジャズ記念オーケストラ」の見事なフィナーレで幕を閉じた。協賛企業から戴いた特別賞・参加賞が授与された。

エントリー受付は制限枠20を5月に超過し、締め切った。その後も参加希望のバンドが続き次回へ回っていただいた。参加バンドの約半数がリピーターであり、新たに新潟、富山、兵庫からのバンドが参加した。地元長野県の2グループ（安曇野市・佐久市）が腕を競った。ビッグバンドが5、コンボ16で、海外のジャズ祭に参加したり、海外遠征するほどのグループや国内のジャズコンテストでグランプリ受賞経歴のあるグループや個人演奏家もみられ、相当技術的レベルの高い演奏が披露された。特にコンボはそれぞれ個性的で、魅力的なステージが多数あった。好天に恵まれ、会場は楽しい雰囲気にもまれ、2日間の参加者総数は約1、300人と去年の倍の数字に達した。

今年の特徴は、観客入場料（昨年まで2,500）を無料とし、観客動員を図ったことである。その成果は上記の参加者数の倍増に反映されている。会場の中心に「感動の壺」を置き、「感動比例式見物料」とした。結果は7万円以上の金額が集まった。

また例年行っている「ニューオルリーズ ハリケーン被災音楽家支援の募金」は総額¥38,475に達した。これは日本ルイアームストロング協会を通じて、現地に送付する楽器の購入資金に充てていただいた。

運営面では、参加者の参加費の範囲内にイベントコストを抑え、赤字を極力回避することに目標を置き、コストパーの更なる低減、飲食物販売の拡大、人件費の抑制などを実施し、ほぼ目標は達成できた。演奏家が参加料を負担し、地元の宿泊施設の人々・ボランティアの無償の奉仕をベースに総合化するこのやり方は所謂「斑尾方式」と呼ばれ、各方面から注目されている。進行する経済恐慌の中で廃止・規模縮小に追い込まれている各地の音楽イベントのなかで、「斑尾ジャズ」が拡大・進化している所以である。

これもご支援いただきました皆様のお陰と深く御礼申し上げます。今後とも皆様のご指導のもとに進めてまいります。宜しくご鞭撻下さいます様お願いいたします。

地元で育ったこの音楽文化を皆様と共に進化させ、次代に継承せんとする努力を継続出来る事を誇りに思います。 以上

ふるさとのジャズ交流祭実行委員会 代表 新山 敏 2009/10/25